

トノサマバッタの 養殖と食用利用の試み

弘前大学農学生命科学部 管原 亮平

世界的食料不足への対策は2030年までに解決の道筋を立てなければならぬ重大な課題である。このままでは、東北の食料生産システムも今後大幅な見直しを迫られる可能性がある。食料危機の解決手段の一つとして昆虫食が注目されている。弘前大学は（同）TAKEOと共同研究に取り組み、トノサマバッタの養殖技術の開発およびトノサマバッタ商品の開発を行なっている。トノサマバッタ用飼料開発の紹介と、トノサマバッタを使った食品の紹介を行う。

弘前大学で保有する トノサマバッタ系統

群生相幼虫



孤独相幼虫



群生相トノサマバッタ

野生型の幼虫



アルビノの幼虫



アルビノ+黒眼の幼虫



野生型の成虫



短翅の成虫



白いバッタおよび逃げ出しにくいバッタを維持しています

トノサマバッタ用飼料の開発



通常の生草飼育



乾燥草を用いた飼料にバッタが集まっている様子



乾燥させた草

トノサマバッタを使ったせんべい



厚焼きのせんべいをベースにバッタ丸ごと使用

今後はトノサマバッタの発育に適した成分の配合を検討します

【問い合わせ先】

弘前大学 研究・イノベーション推進機構 産学官連携相談窓口

E-mail: ura@hirosaki-u.ac.jp / TEL: 0172-39-3176